

研究テーマ 歴史学習を通して、これからの日本を考えさせる指導の工夫
—第6学年 「新しい日本、平和な日本へ」—

【提案】

1964年に行われた東京オリンピック・パラリンピックの学習を通して、2021年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに目を向け、過去の事象をもとにこれからの日本を考えることはできないかと考えた。当時の人々の思いや願いを実際に聞くこと、他教科や行事と関連させることによって、資料やインターネットではわからないところまで学習を深め、実感をもって学習に取り組むことができた。



【聖火リレーの様子】

1 実践のポイント

(1) 体験したことを通して児童が実感をもって学習できるための教科横断的な学習

本校では、令和元年度の運動会の中で「1964年から2020年へ！聖火よふたたび！」というセレモニーを行った。「1964年から2020年へ！聖火よふたたび！」とは、1964年の東京オリンピック・パラリンピックのときに聖火ランナーとして走った方々を招き、聖火リレーを校庭で行った。6年生は聖火ランナーとして、当時使用した聖火のトーチを持って校庭を走った。この体験を通して、1964年の東京オリンピック・パラリンピックのことを総合的な学習の時間で調べ、まとめる活動を行い、東京オリンピック・パラリンピック2020への関心を高めることができた。本単元の中でも、実際に一緒に走った当時の聖火ランナーの方をゲストティーチャーとして招き、当時の経験や感じたこと、人々の願いを知り、より学習を深められるようにしていく。

(2) 歴史学習から自分たちの将来や日本の未来を考える学習過程

戦後の復興の中で行われた1964年の東京オリンピック・パラリンピックを学習し、東京オリンピック・パラリンピック2020との比較する活動を学習過程の「まとめる」の時間に設定する。当時の日本の様子や時代背景から、オリンピック・パラリンピックがもたらした影響を学習し、現在の日本の社会が抱える課題や問題に東京オリンピック・パラリンピック2020がどのように関わってくるのかを予想させ、これからの生き方や、自分でもできる取組や東京オリンピック・パラリンピック2020への参加の仕方についても考えさせることにより、国民としての自覚や我が国への愛情を育てていく。

2 実践の位置付け

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容（２） 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア（サ）日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本実践は、「小学校学習指導要領」第6学年の内容（２）の（サ）に基づいて設定されたものである。ここでは、「さまざまな戦後改革を行って、平和で民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしていったことを理解すること」をねらいとしている。

そこで、本実践では、児童が運動会で体験した「1964年から2020年へ！聖火よふたたび！」を通して、1964年に行われた東京オリンピック・パラリンピックに興味関心が高まっている中で、より詳しく学ぶために、ゲストティーチャーを招いて授業をしていただいた。その中で、当時の人々の願いや思いを直接聞くことによって、児童が実感をもって学習していけるように、工夫していった。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

- ・子供を伸ばすフィードバックの実践

本実践では、戦後の日本の歩みについて、「日本国憲法の制定をはじめとした戦後改革によって平和で民主的な国家として出発したこと」「国際社会への復帰や東京オリンピック・パラリンピック開催などをきっかけに産業が発展し、国民生活が向上したこと」「国際社会において重要な役割を果たしてきたこと」という3点を主なものとしてとらえることができる。学習内容を知識として習得するだけでなく、より実感をもって学習できるように、総合的な学習の時間を利用して、ゲストティーチャーを招き、当時の経験や感じたこと、人々の願いをより具体的に学べるようにした。総合的な学習の時間に学習した当時の社会情勢や人々の願いを、社会の授業でフィードバックできるように設定した。その中でも、東京で二度目となるオリンピック・パラリンピックが開催されることと関連付けて、当時の日本の情勢、人々の願いや思いなどを考え、その思いを東京2020オリンピック・パラリンピックにどう生かしていくかを考える場面を設定していく。

社会科で学習したことだけでなく、総合的な学習の時間で学んだことを記述したり、自分の考えに入れたりすることによって、深い学びにつなげ、ノート観察やプリントでの評価をあげていく手立てとした。

3 実践の内容

(1) 単元の目標と評価規準

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、図や表にまとめ、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにするとともに、世界の人々と共に生きていくことに関して、社会における課題を見だし、それらの解決のために自分たちにできることを選択・判断したりできるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことを理解している。 ② 自分たちの生活の歴史的背景を理解している。	① 我が国の戦後の歩みについて学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ② 戦後改革や日本国憲法の制定、国際社会への復帰、東京オリンピック・パラリンピック、産業の発展などについて調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、戦後我が国が民主的な国家として出発したことや国民の不断の努力、国際社会のなかで重要な役割を果たしてきたことについて考え、表現している。	① 我が国の戦後の歩みに関心を持ち、進んで調べようとしている。 ② 平和で民主的な国家の一員として、日本の課題やよりよい発展について考えようとしている。

(2) 指導計画と評価計画（7時間）

○内の数字は時間を表す。

知：知識・技能 **思**：思考・判断・表現

〈 〉は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習内容・学習活動	評価の観点・内容・方法	資料
つ か む	① 3枚の新宿の写真を見比べて気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・戦後直後の焼け野原 ・東京オリンピックの復興 ・現在のビル群 ・焼け野原から発展、変容 学習問題 戦争が終わってから、どのようなことがあり、日本は、どのように変わっていったのでしょうか。	態① 戦後の日本の急速な変化に関心を持ち、進んで調べようとしている。〈発言・ノート〉	・戦後直後、東京オリンピックが開かれたころ、現在の新宿の写真。

調べる	<p>② 戦後改革や日本国憲法について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の国を目指した戦後改革 ・日本国憲法の制定 →平和主義と民主主義 ・男女平等 	<p>知① 戦後改革や日本国憲法の制定について、必要な情報を資料から読み取り、理解している。 (発言・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が初めて投票している写真 ・日本国憲法
	<p>③ 「サンフランシスコ平和条約」や「国際連合への加盟」「産業の復興」について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1951年に48か国と結んだ平和条約。 ・主権の回復 ・アメリカによる沖縄占領 ・1956年、国際連合への加盟 ・産業の復興、生活の向上 	<p>思① 日本の国際社会への復帰について調べたことを、年表にまとめている。 (ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家電製品の普及の様子 ・年表
	<p>④ 東京オリンピック・パラリンピックの開催とそれに関連する出来事を分野ごとに調べ、人々の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア初のオリンピック ・ホテルが建てられ、道路・下水道整備 ・高速道路や東海道新幹線 ・国民総生産が世界第2位 ・公害などの環境問題 	<p>思② 東京オリンピック・パラリンピック、産業の発展などについて調べたことを分野ごとにまとめている。 (ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・オリンピック・パラリンピック新聞
実践のポイント (1)			
	<p>⑤ 現在の日本が抱える問題や果たすべき役割について調べ、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りや障がいのある人たちの人権 ・子どもや女性の人権 ・アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人などへの差別 ・沖縄のアメリカ軍基地 ・北朝鮮の拉致問題、核開発 ・領土をめぐる問題 ・戦争と平和、核、環境 	<p>態① 平和で民主的な国家の一員として、日本が抱える問題や、よりよい社会のあり方について考えようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳
まとめる	<p>⑥ 学習問題について調べたことを年表に整理し、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育制度の制定 ・1964年東京オリンピック・パラリンピック開催 	<p>思② 民主国家として出発したことや生活が向上したことなどについて考え、言語などを用いて適切に表現している。 (発言、ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年表
<p style="text-align: center;">学習問題の結論</p> <p>戦後の日本は、戦後改革や日本国憲法を制定し、国際連合加盟し、国際社会への復帰を果たした。また、東京オリンピック・パラリンピックを開催し、高度経済成長を遂げたが、公害の問題なども発生してしまった。</p>			

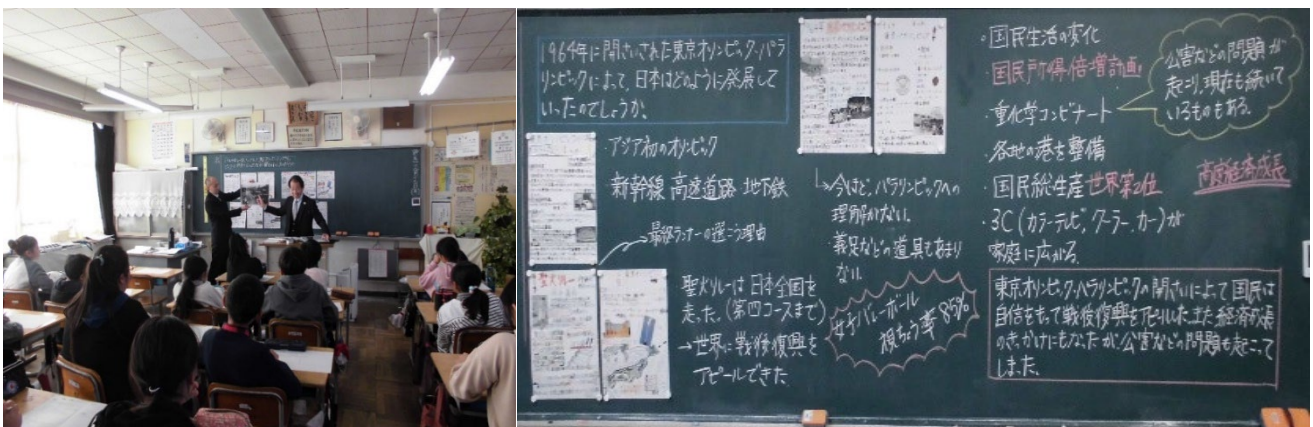
生かす	<p>⑦ 1964年の東京オリンピック・パラリンピックを通しての日本の発展を振り返り、東京オリンピック・パラリンピック2020での日本の取組から、これからの日本の発展について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1964年東京オリンピック・パラリンピックの開催による戦後の復興 ・東京オリンピック・パラリンピック2020では、様々な取組を通して、よりよい国際社会への取組 	<p>態② よりよい日本の歴史をつくっていく一員として、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの日本の取組から、これからの日本の発展について考えている。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">実践のポイント（2）</div>		

4 実践結果と考察

(1) 体験したことを通して児童が実感をもって学習できるための教科横断的な学習

運動会で体験した「1964年から2020年へ！聖火よふたたび！」を通して、1964年に行われた東京オリンピック・パラリンピックに興味をもち、総合的な学習の時間に調べ、まとめていった。また、学習を進めていく中で、当時の日本に住む人々の思いや願いについて、調べるよりも実際に聞いてみたいという児童の考えが出てきた。そのため、実際に聖火リレーに参加した方をゲストティーチャーとして招き、自分たちが調べてまとめた資料や当時の写真などを使って、授業を行っていただいた。

ゲストティーチャーには、当時の日本の情勢、オリンピック・パラリンピックへの期待や盛り上がり、実際に走った感想や市民の思いや行動を、当時の貴重な写真や資料を用いて話をしていただいた。学区内の当時の写真もあり、「ここは〇〇だ！」や「自分の家の近所！」など、児童が身近に感じながら学習することができた。



「ゲストティーチャーによる授業」

[第4時 東京オリンピック・パラリンピックの開催とそれに関連する出来事]

何でこんなにたくさんさんのコースがあるんだろう？



日本人全体が盛り上がり、ほしかった。

社会科の学習後

国内だけでなく、外国に対しては戦後の復興をアピールしたかったのか！

(2) 歴史学習から自分たちの将来や日本の未来を考える学習過程

社会の「生かす」の時間には、これまで学習してきた1964年の東京オリンピック・パラリンピックの学習から、東京オリンピック・パラリンピック2020にどのように関わっていきたいか、また、東京オリンピック・パラリンピック2020を通して、日本はどのように変わっていくのかを考えさせた。現在日本が抱える様々な問題を挙げ、自分たちでもできる取組を考えさせていった。

平和、環境、平等、教育、人権、福祉、経済の分野から、解決したい課題を自分で選び、東京オリンピック・パラリンピックを通して、自分でもできる取組を考えることができた。

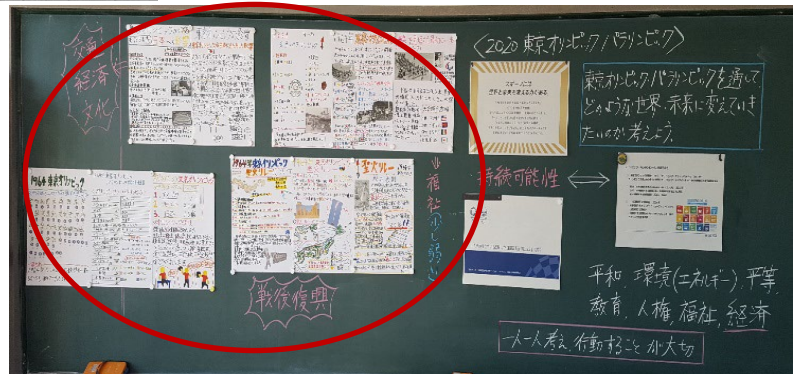
戦争が終わって20年で、世界に言及められ、オリンピック・パラリンピックを開きできたのはすごいと思う。今回、未沼先生の話を聞いて、インターネットで調べることができない当時の盛り上がりや思いも聞けた。当時の人々には、戦後で大きなダメージを受けたばかりで、オリンピックがきて、大変だったと、矢にうれしかったり、色々な考えの気持ちがあったと思う。来年の2020のオリンピックも、1964とはまた違った、影響があると思う。

1964年の東京オリンピック・パラリンピックと2020の東京オリンピック・パラリンピックの比較。(総合)

東京オリンピック・パラリンピックを通して私ほ、みんながオッピンピック・パラリンピックを楽しくして、友達を増やしたいのびとを知ら、たすけあ、みんながみんなをたすけられるようにな社になてほしいと思、い、ま、し、た

よりよい社会にしていけるための自分にできる取組(福祉の分野を選択した児童)

[第7時 「生かす」の板書]



5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

- ・体験したことを通して、学習に望むことによって、過去のことに実感をもって学習することができ、主体的に学ぶことができた。
- ・総合的な学習の時間を利用することによって、調べる時間が増え、学習の深まりがあった。また、ゲストティーチャーを活用することによって、当時の貴重な資料や、地域の変化や盛り上がりまで学習することができた。
- ・1964年当時の人々のオリンピックに対する思いや願いを直接聞き、当時の人々がどのようにオリンピックに関わっていったのかを具体的に学ぶことにより、東京オリンピック・パラリンピック2020へのかかわり方が、より具体的にイメージできた。

〈課題〉

- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックを通して、どのように日本が変容していき、そこにどのように関わっていけるのかという部分の抑えが浅く、日常での取組の範囲を超えられなかった。
- ・総合的な学習の時間に調べた分野により、社会科の学習内容との差があった。